



男女共同参画推進センター
(おもやいセンター)
CENTER FOR GENDER EQUALITY

～男女共同参画推進の拠点～
**おもやい
センター、始動!**

この春、文教キャンパスに誕生した「おもやいセンター」は、
「長崎大学男女共同参画推進センター」の愛称です。
「おもやい」とは九州方面の方言で、「共有する」とか
「一緒に仲良く使う」という意味で使われます。
文字通りそんな精神で活用してほしい「おもやいセンター」。
その活動内容や完成したばかりの施設をご紹介します。



長崎大学男女共同参画推進センター
センター長 / 副学長
(男女共同参画・安全管理担当)
大井 久美子 教授
Oi Kumiko

一人ひとりの意識改革から

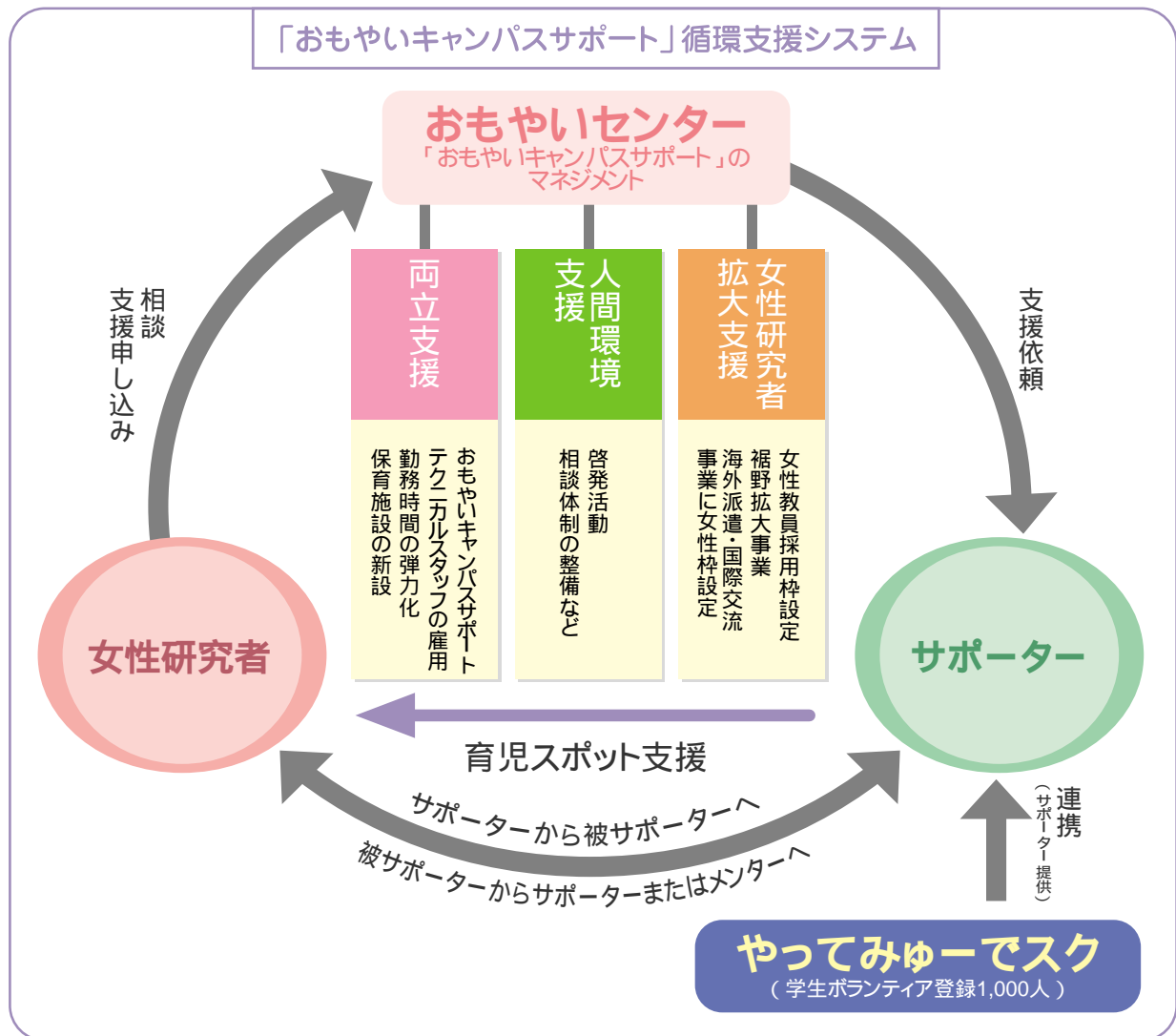
「おもやいセンター」が開設しました。センターの大きな目的は、女性にとって、男性にとって、そして全教職員にとっても快適な職場環境をつくることです。

事業は、「おもやいキャンパスサポート」～「長大モデル」という戦略をもとに進めていきます。これは、「人間環境支援」「両立支援」及び「女性研究者拡大支援」の3つの部門を柱にしています。その中で、長崎大学の学生ボランティアを活用する育児支援システムは、他に類がない新しい取り組みとして期待されています。

男女共同参画事業の推進のためには、一人ひとりの意識改革が不可欠です。女性教職員は、自らの仕事をやり遂げるという覚悟が必要になることは言いつまでもありません。男性教職員は、これまで以上に理解と協力を求められることになるでしょう。中でも、意思決定権を有する管理者の方々の意識改革は重要です。そのために、環境整備を図りながら、じっくり取り組んでまいります。

長崎大学男女共同参画推進戦略 (おもやいキャンパスサポート～長大モデル～)

学生の力を活かす、長崎大学独自の取り組み!!





人間環境支援部門長
筑波 隆幸 教授
Tsukuba Takayuki
(大学院医歯薬学総合
研究科医療科学専攻)

ワーク・ライフ・バランスを目指して

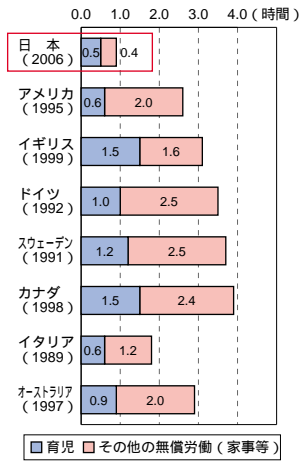
この部門では、意識改革に向けた啓発活動や、コディネータ、カウンセラー、メンター（知識や技術、経験が豊富で指導や助言を行う人）による相談体制づくりを行います。特に若い女性研究者が、先輩の女性研究者などに、悩みなどを気軽に相談できる環境を整備していきます。

男女共同参画への意識を持つためには、まず、男性側に女性研究者の現状を理解していただくことが重要になります。管理職、教職員など対象者に応じた講演やセミナーなどで啓発を進めていきます。

また、具体的な達成目標として、男性の育児休業取得率10%を目指します。私自身、5才と小4の子供がおり、妻も本学の研究者で共働きです。職場は、どのような支援や協力が必要なのか、自身の経験を活かしたいと考えています。

「人間環境支援」の目指すところは、ワーク・ライフ・バランス仕事と生活の調和（の実現です。長崎大学に適した男女共同参画推進のシステムを築いていきたいと思っています。

5歳未満児のいる夫婦の夫の育児、家事時間



日本の男性の家事・育児に費やす時間は、世界的にみても低い水準だ。
資料: OECD Employment Outlook 2001 総務省「社会生活基本調査」(平成18年)

ミーティングルーム

ワーク・ライフ・バランスをとりもどす場所

窓の外の緑を眺めながら、くつろいで話ができる。落ち着いた雰囲気の間。相談ごとや茶話会などに活用します。



学内に相互支援の気風を



両立支援部門長
大石 和代 教授
Oishi Kazuyo
(大学院医歯薬学総合
研究科保健学専攻)

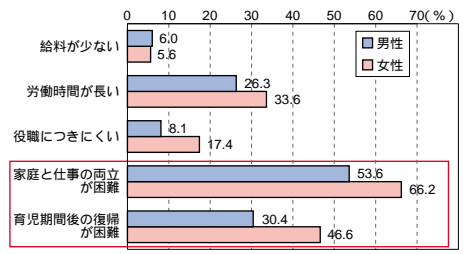
女性研究者の仕事と家庭生活とくに子育ての「両立支援」を行います。すでに、出産や育児で研究活動が滞らないよう、大学院生を「テクニカルスタッフ」として雇用し、女性研究者の研究をサポートするシステムがはじまっています。

また、学内の学生サポーターが保育園の送り迎えなど、育児をサポート的に支援する「おもいキャンパスサポーター」のシステムを整備します。本学の「やってみようでスク」と連携し、サポーター養成も行います。

この試みは、支援を受けた女性研究者が将来、サポーターやメンターなどの支援提供側にまわり、支援した学生が支援される側になるといって、循環型支援モデルの定着を目指します。同時に、学内に育児に関する相互支援の気風と、仕事と家庭

を両立する女性研究者のロールモデルが生まれることが期待されます。また現在、子育ての悩みを抱えている女性研究者の方は、ぜひ「おもいセンター」へ、ちょっと話すだけでも随分、気が楽になりますよ。

女性研究者が少ない理由(一部抜粋)



出典:「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」
(平成20年7月 男女共同参画学協会連絡会)
男女共同参画学協会連絡会に加盟する60以上の学協会の会員を主な対象として調査を実施(複数回答)
(平成19年8月~11月)回答総数14,110件(男性10,349人、女性3,761人)

プレイルーム

天然木の優しさと
温もりに包まれて
のびのびと過ごす

床は、優しい風合いの天然木(サクラ)。
全面床暖房で、寒い日も日だまりのような暖かさです。
壁は、適度に湿度調整をしてくれる珪藻土けいそうどを使用。
仮眠室もあり、子供たちが安心して過ごすための
配慮や工夫を随所に施しています。



確実に、女性研究者を増やす



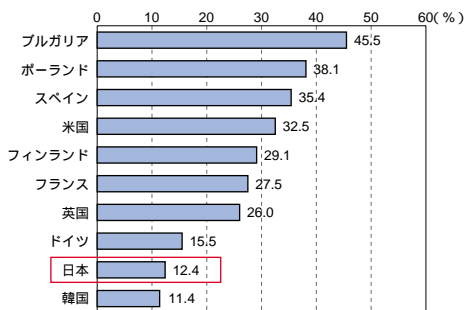
女性研究者拡大支援部門長
平岡 教子 教授
Hiraoka Kyoko
(環境科学部)

まず、女性研究者の数を増やすことが大きな目標です。それはより多様で優れた人材を確保していく上で、また雇用の平等を確保するという意味で、重要な課題です。「おもいやいセンター」では、そのための方策を提案・実施し、女性の積極的な採用や、昇進のための支援を行います。具体的な目標として、新規教員採用の女性の割合30%を目指します。現在、本学全体の女性研究者(教員)の割合は14・8%ですが、今後3年間で20%まで増やすことが目標です。

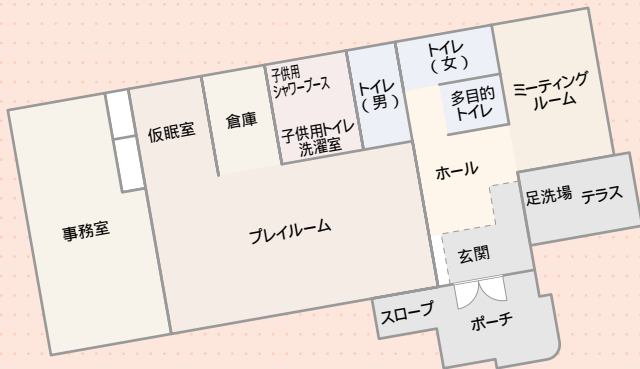
女性研究者の裾野を拡大するために、高校生や大学生に対し、女性研究者が魅力的な職業のひとつであることを紹介する出前講義なども計画。女性研究者は特に理系が少ないので、理系の面白さも同時に伝えます。

研究生活は男女を問わず、寝食を忘れ深夜まで没頭することが多いものです。そのような中、子育て中の女性研究者がたいへん無理をされている姿がありました。これからは男性にも、女性にも、よりよい研究環境の整備を目指します。

女性研究者の全体に占める割合(国際比較)



出典:平成20年版 科学技術白書(抜粋)



- 1 子供用シャワーブースもあります。
- 2 子供用トイレ。同スペースに洗濯室も設置。
- 3 手をはさまないよう工夫された引き戸。
- 4 プレイルームのすぐ隣が事務室。
- 5 豊かな空間を演出する天井の入り。
- 6 開放的な玄関&ホールがお出迎え。
- 7 芝生の庭も遊び場。足洗場もあります。

育児と育児支援について理解を深め、
おもいやいキャンパスサポートの
必要性がわかる！

「大学生のための育児学」
Parenting Education for University Students
平成22年度後期開講！

〔全学教育
選択2単位〕

現代社会での育児支援の必要性を理解し、育児に関する知識・技術について学ぶ科目です。

講義はオムニバスで行われ、講義の前半(第1～7回)では、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス及び少子社会、育児の現状及び具体的な施策について紹介。後半(第8～15回)では、胎児・乳幼児の持つ能力及び心身の発育・発達について紹介し、具体的な育児技術について学びます。



授業内容 / 前半のテーマ

- 第1回 男女共同参画社会という社会的理念の歴史的背景
- 第2回 働き方の変革・ワーク・ライフ・バランス・
- 第3回 少子化が社会に与える影響
- 第4回 少子化の原因
- 第5回 妊娠・出産を取り巻く社会環境
- 第6回 育児に困窮する母親たちの存在
- 第7回 育児支援施策おもいやいキャンパスサポートを含む)

くつろいでお話ししましょう。お気軽にお越しください。

おもいやいキャンパスサポーターの学生さんたちの育児に関する養成研修などを担当します。
このセンターが利用者にとって居心地のいい場所になるといいですね。

コーディネータ(看護師)
濱口 盛子 さん



【男女共同参画推進センター(おもいやいセンター)】 <http://www.cge.nagasaki-u.ac.jp/>
TEL .095-819-2889 FAX .095-819-2159